

<p style="text-align: center;">国語Ⅲ （ JapaneseⅢ）</p>	<p style="text-align: center;">3 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修</p> <p style="text-align: center;">5 学 科 共 通 担 当 松 井 真 希 子</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語学習の必要性・重要性を「読む・聞く・書く・話す」活動の実践を通じて理解し、読解力及び表現力の向上を図るとともに、自分で「調べる」「考える」「工夫する」能力を高める。 ・ 国語常識を習得するとともに、言語感覚を豊かにし、広く国語を尊重する態度を養う。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書教材を主に活用して理解する能力、表現する能力の実践、トレーニングを行うとともに、副教材その他を活用して社会人として通用する国語常識、国語運用能力を身に付ける。 ・ 主体的に国語学習に取り組むことの重要性を認識し、その学習実践を行う。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語授業の学習活動の意図を十分に理解し、指示された以上の活動を進んで行うこと。 ・ 基礎的な国語力を習得するとともに、応用的な国語力を身に付ける工夫を行うこと。 ・ 主体的に「書く・話す」等の表現を行い、他者との言語を媒介とする交流を図ること。 ・ 毎時間のはじめに漢字や語句の小テストを実施するので、準備をすること。 ・ 国語Ⅲはすべての科目の基礎であり、応用へと結びつく科目であるとともに、社会人として不可欠な常識を学ぶという視点から、日常生活における言語活動をも視野に置き、そのために必要となる学習を進めること。 		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験： 国語常識に関する基礎知識を習得し応用できる、評論を正確に読解できる。</p> <p>前期末試験： 国語常識に関する基本的知識を習得し応用できる、小説を正確に読解できる。</p> <p>後期中間試験： 国語常識に関する基礎知識を習得し応用できる、評論を的確に読解し応用できる。</p> <p>学年末試験： 国語常識に関する基本的知識を習得し応用できる、小説を的確に読解し応用できる。言語表現に関する知識を習得し応用できる、国語総合力を身に付けて応用できる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績(70%)</p> <p>学習活動の状況及びその成果（小テスト、課題、音読、発表、質疑応答その他 30%）を加え、総合的に評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「精選現代文 B」明治書院</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>「新版高校漢字必携」第一学習社、「新国語便覧」第一学習社、独自教材</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>国語Ⅰ、国語Ⅱ、人文科学総合Ⅰ</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンス	この科目の特色、受講心得	
第2週	グローバリゼーションの光と影 1	漢字小テスト① 評論の読解① 予習プリント	
第3週	グローバリゼーションの光と影 2	語句小テスト① 評論の読解② まとめ	
第4週	檸檬 1	漢字テスト② 小説の読解① 予習プリント	
第5週	檸檬 2	語句小テスト② 小説の読解②	
第6週	檸檬 3	漢字テスト③ 小説の読解③ 意見交換	
第7週	檸檬 4	語句小テスト③ 小説の読解④ まとめ	
第8週	異文化理解 1	前期中間試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第9週	異文化理解 2	漢字小テスト④ 評論の読解②	
第10週	異文化理解 3	語句小テスト④ 評論の読解③ まとめ	
第11週	異文化理解 4	漢字テスト⑤ 評論の読解④ 要約課題	
第12週	兵隊宿 1	語句小テスト⑤ 小説の読解① 予習プリント	
第13週	兵隊宿 2	漢字テスト⑥ 小説の読解②	
第14週	兵隊宿 3	語句小テスト⑥ 小説の読解③ 意見交換	
第15週	兵隊宿 4	小説の読解④ 作文課題	
前期末試験			
第16週	「名付け」の精神史 1	前期末試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第17週	「名付け」の精神史 2	漢字小テスト⑦ 評論の読解②	
第18週	「名付け」の精神史 3	語句小テスト⑦ 評論の読解③	
第19週	舞姫 1	漢字小テスト⑧ 小説の読解① 予習プリント 読解プリント	
第20週	舞姫 2	語句小テスト⑧ 小説の読解② 読解プリント	
第21週	舞姫 3	漢字小テスト⑨ 小説の読解③ 読解プリント 意見交換	
第22週	舞姫 4	語句小テスト⑨ 小説の読解④ 読解プリント まとめ 相互評価	
第23週	「である」ことと「する」こと 1	後期中間試験の見直し 評論の読解① 予習プリント	
第24週	「である」ことと「する」こと 2	漢字小テスト⑩ 評論の読解②	
第25週	「である」ことと「する」こと 3	語句小テスト⑩ 評論の読解③	
第26週	「である」ことと「する」こと 4	漢字小テスト⑪ 評論の読解④	
第27週	私の個人主義 1	語句小テスト⑪ 評論の読解① 予習プリント	
第28週	私の個人主義 2	漢字小テスト⑫ 評論の読解②	
第29週	私の個人主義 3	語句小テスト⑫ 評論の読解③ 意見交換 相互評価	
第30週	私の個人主義 4	評論の読解④ まとめ	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">歴 史 Ⅱ （ HistoryⅡ ）</p>	<p style="text-align: center;">3 年 ・ 通 年 ・ 2 単 位 ・ 必 修 3MI 担 当 吉 井 武 史</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕 歴史の学習の目的は、過去に学ぶ事によって、現在の社会の成り立ちを理解し、さらに未来への展望を探る事にあると言えよう。そのためには正確な事実を追究する姿勢が重要である。</p>		
<p>〔講義の概要〕 2年生では、日本史を軸とした歴史を学んだわけであるが、3年生では、いわゆる世界史を学習する事となる。但し、全世界の国々の歴史を総花的に概観するだけでは、底の浅い理解しか得られないと思われるので、現在の世界に最も重大な影響を与えているヨーロッパ諸国の歴史を軸に、それなりの深度を持った講義を展開して行きたい。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 教科書に準拠したプリントを用いて授業を行なう。授業には副教材を使用する。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験: 1) 先史時代の理解、2) 古代アメリカ文明の理解、3) 古代オリエント文明の理解、4) 古代ギリシア文明の理解 前期末試験: 1) ヘレニズム時代の理解、2) 古代ローマ文明の理解、3) ゲルマン民族大移動期の理解 後期中間試験: 1) フランク王国の理解、2) 中世前期西欧社会の理解、3) 中世東欧社会の理解、4) 中世後期西欧社会の理解 学年末試験: 1) 中世西欧文化の理解、2) 大航海時代の理解、3) ルネサンスの理解、4) 宗教改革の理解、5) 絶対主義時代の理解、6) 英国市民革命の理解</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績（80％）にレポート点（20％）を含めて総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「高校世界史B」，山川出版社，著者；佐藤次高・木村靖二・岸本美緒 〔補助教材・参考書〕 「明解世界史図説 エスカリエ」，帝国書院， 「補助教材：配布プリント」</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕 講義にあたっては、1年次で学習した地理や、2年次で学習した日本史との関連も重要になるので、各自が適宜復習しておいてもらいたい。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	先史時代	人類の生物学的進化の過程と文化の発展について説明する。	
第2週	古代アメリカ文明	メソアメリカ・アンデス両文明の特質について説明する。	
第3週	メソポタミア・エジプト文明	メソポタミア・エジプト両文明の成立と相違点について説明する。	
第4週	古代のシリア・パレスティナ	アラム人・フェニキア人・ヘブライ人の活動について説明する。	
第5週	アッシリア・ペルシア帝国	アッシリア・アケメネス朝・バルティア・ササン朝について説明する。	
第6週	エーゲ文明とポリスの成立	エーゲ文明に関して発見史を交えながら解説し、ポリスの成立と古代ギリシア人の民族意識について説明する。	
第7週	古代ギリシアの民主政治	アテネの民主政治成立過程を説明し、現代の民主政治との相違点を理解させる。スパルタの特殊な国制についても解説する。	
第8週	ヘレニズム時代	アレクサンドロス大王の東征とディアドコイ戦争後のオリエン特情勢について説明する。	
第9週	ギリシア・ヘレニズム文化	ギリシア・ヘレニズム時代の文化について説明する。	
第10週	共和政ローマ	都市国家ローマの成立から地中海世界統一までの過程を説明する。	
第11週	帝政ローマ	前期帝政と後期帝政の相違点を理解させる。	
第12週	キリスト教の成立と発展	キリスト教の宗教伝説と史実との相違点を理解させる。	
第13週	ローマ文化	キリスト教関連以外のローマ文化について説明する。	
第14週	ヨーロッパ大陸の気候風土	ヨーロッパ大陸の気候風土・地理的特質について解説する。	
第15週	ゲルマン民族大移動	ゲルマン民族大移動期の欧州情勢について説明する。	
前期期末試験			
第16週	フランク王国	フランク王国の西欧統一と分裂について説明する。	
第17週	ノルマン人の活動と封建社会	ヴァイキングの活動と中世西欧封建制について説明する。	
第18週	カトリック教会の発展と東ローマ帝国	叙任権闘争による教会権力の発展を説明し、東ローマ帝国の興亡についても解説する。	
第19週	スラヴ民族の活動	東欧のスラヴ民族の国家形成について解説する。	
第20週	十字軍と中世都市	十字軍派遣と、それに伴う西欧の商業復活について説明する。	
第21週	封建制度・カトリック教会の衰退	封建制度崩壊と教会の権威失墜の過程を説明する。	
第22週	英国議会の成立と百年戦争	身分制議会の成立と中央集権国家成立への過程を説明する。	
第23週	レコンキスタと神聖ローマ帝国	中世末期のイベリア半島・ドイツ・イタリアの情勢を説明する。	
第24週	中世西欧文化	中世西欧文化の特質を理解させる。	
第25週	大航海時代	ポルトガル・スペイン両国の活動を中心に説明する。	
第26週	ルネサンス	イタリアルネサンスの成立と他国への波及について説明する。	
第27週	宗教改革	ルター・カルヴァンの改革と英国国教会成立について説明する。	
第28週	スペイン絶対主義とオランダの独立	スペインの極勢期とオランダの活動について説明する。	
第29週	ユグノー戦争と三十年戦争	大規模な宗教戦争の実態について説明する。	
第30週	英国市民革命	清教徒革命と名誉革命を経た議会主権国家の成立について説明する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成)

政治・経済（Politics and Economics）	3 年・通年・2 単位・必修 5 学科共通 担当 竹原 信也	
〔準学士課程（本科 1-5 年）学習教育目標〕（1）		
〔講義の目的〕 私たちが現在生活している社会について、その仕組み、ルールを学ぶ。単なる暗記科目としてではなく、「生きた」学問として政治・経済を捉える。		
〔講義の概要〕 教科書・ノートを用いた講義を中心にすすめる。適宜、視聴覚教材の利用やグループ活動を行う。前半は主として政治について、後半は、経済と国際社会について学ぶ。		
〔履修上の留意点〕 授業をよく聞くこと。授業とは関係のない私語や携帯の利用は慎むこと。授業の前後に教科書を一読しておくことを奨励する。授業の内容に関連するトピックについて各自色々と考えてみてほしい（授業中の積極的な発言も歓迎）。政治・経済の面白さを実感するためにも、新聞やニュースなどに触れ、政治・経済について関心を寄せて欲しい。		
〔到達目標〕 〈前期中間試験〉 「民主政治」について基礎的事柄を理解している。 「日本国憲法」について基礎的事柄を理解している。 〈前期末試験〉 「基本的人権」について基礎的事柄を理解している。 「政治制度」について基礎的事柄を理解している。 〈後期中間試験〉 「資本主義経済」について基礎的事柄を理解している。 「国民所得と経済成長」「金融・財政」について基礎的事柄を理解している。 〈学年末試験〉 「国際社会」について基礎的事柄を理解している。		
〔評価方法〕 定期試験（70%）、課題・ノート提出・発表・グループワークでの取り組み・小テストを総合的に評価（30%）		
〔教科書〕 『高等学校 政治・経済』改訂版、第一学習社 〔補助教材・参考書〕		
〔関連科目〕 社会科科目全般に関連する。		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価＊
第１週	ガイダンス	授業の目的・概要・評価方法を説明する	
第２週	民主政治の基本原則	民主政治の原理と発展について学ぶ	
第３週			
第４週			
第５週	日本国憲法	日本国憲法の成り立ちについて学ぶ 平和主義について学ぶ	
第６週			
第７週			
第８週	前期中間試験解説		
第９週	基本的人権	基本的人権について学ぶ	
第１０週			
第１１週			
第１２週	日本の政治機構	日本の政治制度について学ぶ	
第１３週			
第１４週	「働く」こと	「働く」ことについて考える。	
第１５週			
前期期末試験			
第１６週	経済社会の変容	経済と資本主義経済の発達について学ぶ 資本主義経済の変容と社会主義経済の考え方について学ぶ。	
第１７週			
第１８週	現代経済のしくみ①	経済主体と経済活動について学ぶ。	
第１９週	現代経済のしくみ②	市場経済の機能と限界について学ぶ。	
第２０週			
第２１週	現代経済のしくみ③	経済成長と景気変動について学ぶ。	
第２２週	現代経済のしくみ④	財政の仕組みについて学ぶ。	
第２３週	後期中間試験		
第２４週	現代経済のしくみ⑤	金融と物価の仕組みについて学ぶ	
第２５週	現代経済のしくみ⑥	国際経済の基礎知識を学ぶ。	
第２６週	貿易ゲーム	国際経済を疑似体験する。	
第２７週	国際社会のしくみ①	国際政治の概要について学ぶ	
第２８週	国際社会のしくみ②	第一次世界大戦と国際連盟について学ぶ。	
第２９週	国際社会のしくみ③	第二次世界大戦と大戦後の国際社会について学ぶ。	
第３０週	国際社会のしくみ④	東西冷戦と現代の国際紛争について学ぶ	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

微分積分Ⅱ（CalculusⅡ）		3年・通年・4単位・必修 機械工学科 担当 安田 智之 電気, 電子制御, 情報工学科 担当 名倉 誠 物質化学工学科 担当 市原 亮	
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)			
〔講義の目的〕 極限の概念とそれを基礎とする微分法および積分法は、近代になってから完成した数学のうち最も重要な部分とされ、他分野に広く応用されている。これらを2年次の「微分積分Ⅰ」でひととおり学んだ。それらを更に深く学び、数学的なものの見方、考え方をより確実に身に付けることが本講義の目的である。すぐ使える技術としての微分積分の計算力と、後になってじわじわと効いてくる数学の素養を身に付けることになる。			
〔講義の概要〕 前期は、前半で微分法の応用、特に関数の振舞いをより精密に調べる方法や、三角関数や指数関数などよい性質を持つ関数を二次関数や三次関数といった「多項式関数」で近似する方法を学ぶ。後半では細かく分割したものを積み重ねて図形の面積や体積を計算する方法(積分法)をより深く学ぶ。後期は、前半で二変数関数の微分・積分を学ぶ。後半では現象を観測するときに得られる「導関数を含む方程式」から過去や未来を知る方法(微分方程式の解法)を学ぶ。			
〔履修上の留意点〕 最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、鉛筆を動かしながら考えていくことを勧めます。最初は細かいことを気にせずに、大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方が分かっただけでも面白いのですが、理論もわかればもっと面白いと思います。そのためには授業中、集中して自分の頭で理解すること。ノートを書くこと。しかし板書を写しただけでは、理解したことにはなりません。自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、練習問題を時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。復習を主とする地道な家庭学習を心がけて下さい。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員のところまで質問に来て欲しいと思います。			
〔到達目標〕 何となくわかったのでは不十分です。自力で問題が解けなければ意味がありません。教科書の「問題」と「練習問題」、問題集の「A 問題」が自力で解けるようになることを最低目標とします。 (前期中間まで) 一変数関数の微分法とその応用を理解し、計算が正確にできること。 (前期末まで) 一変数関数の積分法とその応用を理解し、計算が正確にできること。 (後期中間まで) 二変数関数の微分・積分を理解し、計算が正確にできること。 (学年末まで) 微分方程式の扱い方を理解し、基本的な微分方程式の解き方を身につけること。			
〔評価方法〕 定期試験の結果(60%)を基本とし、課題,小テスト,授業への取り組み(40%)を加えて総合的に評価する。			
〔教科書〕 「新版 微分積分Ⅱ」, 実教出版, 岡本 和夫 編 〔補助教材・参考書〕 「新版 微分積分Ⅱ演習」, 実教出版, 岡本 和夫 編			
〔関連科目〕 2 年次に学習した微分・積分の復習を勧める。「微分積分Ⅱ」の内容は、「応用数学α」や「応用数学β」をはじめ、応用物理や各専門科目の基礎となる。			

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	いろいろな関数表示	関数の媒介変数表示, 極座標表示に関する微分法を学ぶ。	
第 2 週	同上	関数の陰関数表示に関する微分法を学ぶ。	
第 3 週	平均値の定理, その応用	連続関数の性質, 不定形の極限値を求める方法を学ぶ。	
第 4 週	テイラーの定理	いろいろな関数を多項式で近似する方法を学ぶ。	
第 5 週	テイラーの定理の応用	関数の極値を, 増減表を用いなくて求める方法を学ぶ。	
第 6 週	リーマン積分	面積を微小な面積の和の極限値として求める考え方を学ぶ。	
第 7 週	微分積分法の基本定理	定積分とリーマン積分が同じ値をもたらすことを理解する。	
第 8 週	不定積分	微分積分 I のものより複雑な関数の不定積分を求める。	
第 9 週	定積分の応用	いろいろな関数表示で表された図形の面積を求める。	
第 10 週	曲線の長さ	いろいろな関数表示で表された曲線の長さを求める。	
第 11 週	立体の体積	立体の体積の求め方, 広い意味での定積分を学ぶ。	
第 12 週	2 変数関数, そのグラフ	二つの変数をもつ関数とその偏導関数について学ぶ。	
第 13 週	極限値と偏導関数	二変数関数の極限値, 偏導関数を計算する。	
第 14 週	合成関数の偏導関数	二変数関数の合成関数について偏導関数を計算する。	
第 15 週	全微分と接平面	二変数関数の近似について学ぶ。	
前期期末試験			
第 16 週	極値問題	二変数関数の極値の求め方について学ぶ。	
第 17 週	陰関数の微分法	陰関数定理を学び, 陰関数の極値の求め方を学ぶ。	
第 18 週	条件付き極値問題	ある条件のもとでの二変数関数の極値を求め方を学ぶ。	
第 19 週	2 重積分の定義	重積分の定義とその計算法を学ぶ。	
第 20 週	累次積分と順序交換	積分領域を図示して, 積分の順序を変更して計算する。	
第 21 週	2 重積分と座標変換	極座標など, 座標系をかえて積分する方法を学ぶ。	
第 22 週	体積, ガウス型積分	立体の体積を, 重積分を利用して求める。確率統計への準備。	
第 23 週	重心とモーメント	ものの重心の求め方, その応用を学ぶ。	
第 24 週	微分方程式とその解	自然現象は導関数を式の中に含んだ方程式で表現できる。	
第 25 週	変数分離形	二つの変数が積の形で分離している型の微分方程式を解く。	
第 26 週	同次形	二つの変数の次数が同じである型の微分方程式を解く。	
第 27 週	線形微分方程式	未知関数とその導関数の一次式である型のものを解く。	
第 28 週	2 階微分方程式 (1)	1 階微分方程式に直して 2 階微分方程式を解く。	
第 29 週	2 階微分方程式 (2)	係数が定数であるような型の 2 階線形微分方程式を解く	
第 30 週	2 階微分方程式 (3)	微分方程式の連立方程式, 非定数係数の微分方程式を解く。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成)

代数・幾何Ⅱ (Algebra and Geometry Ⅱ)		3年・後期・1単位・必修 機械工学科 担当 作間 美穂 電気工学科 担当 梅本 悠莉子 情報工学科 担当 荒金 憲一		
〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)				
〔講義の目的〕 数学はあらゆる科学の基礎になっており、自然科学はもとより社会科学でも数学の知識を必要とすることが多い。ここでは基本的な数学的道具である行列と行列式を学び、数学的思考力を養うと共に十分な計算力を培う。				
〔講義の概要〕 2年次の「代数・幾何Ⅰ」で学んだベクトルや行列・行列式の知識を基礎として講義は行われる。まず、ベクトルの内積や外積について復習し、「行列式」の図形的意味について勉強する。次に、座標平面上の点の一次変換（線形変換）を行列表示し合成変換や逆変換と行列の積や逆行列との関係を学ぶ。さらに、固有値を求めて「行列の対角化」と呼ばれる行列の標準化を考える。				
〔履修上の留意点〕 数学を学ぶときは、最初から記号や言葉の意味を頭で理解しようとせずに、出来るだけ具体的な問題(例題)を通して、手を動かしながら考えていくことを勧めます。細かいことばかり気にせずに大筋をつかむように勉強していくとよいでしょう。計算の仕方、そして理論が分かってくれば数学が非常に面白くなると思います。そのためには授業中、集中して自分の手を動かすことが大事です。しかしノートを写しただけでは理解したことにはなりません。自分なりに内容をかみくだいて納得できるまで、頭を働かせることが重要です。そして、宿題で出される練習問題に時間をかけてこつこつと解いていくことが大切です。疑問点がある場合には授業中だけでなく、放課後も利用して積極的に担当教員まで質問に来て下さい。難しいと思うことも以上のような取組みを続けていけば、だんだん易しくなってきます。				
〔到達目標〕 ① 何となく理解するのではなく、自力で問題が解けなければ意味がありません。 ② 教科書の例題と問題および問題集のA問題が完全に解けるようにして下さい。 前期中間試験：行列式の図形的意味を理解し、三角形の面積や四面体の体積を計算する。 座標平面上の点の一次変換を行列表示し、様々な2次曲線を標準形で表す。 前期末試験：行列（すなわち一次変換）の固有値と固有ベクトルを求めて行列を対角化する。 さらに、その応用として行列の冪乗を計算する。				
〔評価方法〕 定期試験の結果(70%)を基本とし、これに小テスト・レポート・授業への取り組み(30%)を加えて総合的に評価する。				
〔教科書〕 「新版 線形代数」、実教出版、岡本 和夫 監修 〔補助教材・参考書〕 「新版 線形代数演習」、実教出版、岡本 和夫 監修				
〔関連科目〕 1年次と2年次で学んだ数学、特に代数・幾何Ⅰで学んだ考え方が基礎となる。また本講義で学ぶ内容は応用数学 α、応用数学 βをはじめ、各専門科目の基礎となる。				

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	行列式の図形的意味(1)	平面ベクトルの内積、空間ベクトルの外積を復習し、平行四辺形の面積と平行六面体の体積を計算する。	
第2週	行列式の図形的意味(2)	ベクトルの1次独立・1次従属と、行列式による判定法を学ぶ。	
第3週	1次変換(線形変換)	座標平面上の点の対称移動や回転移動を行列表示する。	
第4週	合成変換と逆変換	1次変換の合成変換と逆変換について学ぶ。	
第5週	1次変換の応用(1)	1次変換の線形性を学び、座標平面上の直線を1次変換する。	
第6週	1次変換の応用(2)	座標平面上の2次曲線を1次変換し、その標準形を求める。	
第7週	1次変換の応用(3)	空間図形への応用を考える。特に座標変換(重積分の変数変換)と関連について意識する。	
第8週	まとめと演習		
第9週	行列の固有値と固有ベクトル(1)	2×2 行列の固有値と固有ベクトルを求める。	
第10週	行列の固有値と固有ベクトル(2)	3×3 行列の固有値と固有ベクトルを求める。	
第11週	正方行列の対角化	2×2 行列と 3×3 行列を対角化する。	
第12週	対称行列の対角化	対称行列を直交行列によって対角化する。	
第13週	対角化の応用	行列の n 乗を計算する。	
第14週	2次形式の標準化	行列を用いて2次形式を標準化する。	
第15週	まとめと演習		
前期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

<p style="text-align: center;">保健・体育Ⅲ (Health and Physical Education Ⅲ)</p>	<p style="text-align: center;">3年・通年・2単位・必修 機械、電気、電子制御、情報工学科 ：森 弘暢、竹村匡弥 物質化学工学科：森 弘暢</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (1)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動実践を通して、技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、健康の保持増進のための実践力と体力の向上を図り、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。 		
<p>〔講義の概要〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 体力を高め、運動を楽しむ態度を育てるために、各種の運動を実践し、競技ごとの技術やルール、社会性、身体に関する知識を学ぶ。 		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己の能力に応じて運動技能を高め、体力の保持増進につとめること、また、自己の健康状態を把握し、改善していくための方法を身につけるとともに、スポーツ文化への理解をとおして豊かなスポーツライフの確立をめざしてほしい。 		
<p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種の運動技術に関する基礎的な技能及び知識を身につけ、運動に親しむ態度を養う。また、自己の体力を知り、高めるための方法を追求できるようにする。 		
<p>〔評価方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 各授業時の課題への取り組み状況（60%）、運動技術及び知識の習熟度（40%）を総合して評価する。 		
<p>〔教科書〕 『保健体育概論改訂増補版』近畿地区高専体育研究会編、晃洋書房</p> <p>〔補助教材・参考書〕 『アクティブスポーツ【総合版】』、大修館書店</p>		
<p>〔関連科目〕</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	体力・運動能力調査①	文部科学省が定める「新体力テスト」の実施。	
第 2 週	体力・運動能力調査②	同上	
第 3 週	体力・運動能力調査③	同上	
第 4 週	ソフトボール①	ソフトボールのルールを知り、基本的技術を習得することで簡易ゲームができるようにする。	
第 5 週	ソフトボール②	同上	
第 6 週	ソフトボール③	これまでに習得した技能を活かし、ゲームができるようにする。	
第 7 週	バレーボール①	これまでに習得した個々の技能を活かし、チームとしての攻撃ができるようにする。	
第 8 週	バレーボール②	同上	
第 9 週	バレーボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 10 週	水 泳①	水の特性を理解して泳法の練習を行うとともに、ウォーター・スポーツを体験することにより、その楽しみに触れる。	
第 11 週	水 泳②	同上	
第 12 週	水 泳③	同上	
第 13 週	テニス①	テニスのルールを知り、基本的技術を習得する。	
第 14 週	テニス②	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスでのゲームができるようにする。	
第 15 週	テニス③	同上	
第 16 週	バドミントン①	これまで習得した技能をもとに、ダブルスでのコンビネーションプレーができるようにする。	
第 17 週	バドミントン②	これまでに習得した技能を活かし、ダブルスのゲームを行う。	
第 18 週	バドミントン③	同上	
第 19 週	バスケットボール①	これまで習熟した技術をもとに、組織的なコンビネーションプレーをできるようにする。	
第 20 週	バスケットボール②	同上	
第 21 週	バスケットボール③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 22 週	サッカー①	これまで習得した技能をもとに、組織的なコンビネーションプレーをできるようにする。	
第 23 週	サッカー②	同上	
第 24 週	サッカー③	チームを編成し、ゲームができるようにする。	
第 25 週	選択制①	種目を選択し、練習からゲームの実施までを自主的にできるようにする。	
第 26 週	選択制②	同上	
第 27 週	選択制③	同上	
第 28 週	選択制④	同上	
第 29 週	選択制⑤	同上	
第 30 週	選択制⑥	同上	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">英語 III (English III)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 5 学科共通・担当 西川 幸余</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (3)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本講義は、学生が将来英語の論文を読み書きするための基礎づくりとして、大学入試で扱われる程度の文法と語彙、及び読解力の増強を目標とする。</p> <p>英語を読み、情報や様々な考えを的確に理解し自己の考えを深める能力を伸ばすだけでなく、既習文法知識の活用を促す「聞く」、「話す」、「書く」言語活動を通じて、更なる英語運用能力の向上を目指す。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>上記の目標を達成するために、1・2年で学習した内容の定着を図りながら、教員が指定する課題をもとに、文法、語彙、及び読解力の増強のための学習活動を行う。文法の復習だけでなく、その知識を活用し、簡単な英語で自分の考えや意見を話したり、書いたりする言語活動を取り入れる。また、英語の発音に慣れ親しむために、リスニング問題やディクテーションに取り組み、聞く力を養う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>課題が出されるので必ず準備してから授業に臨むこと。授業では、英語4技能の「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」力を伸ばすための言語活動を行うので、積極的に取り組むこと。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：1) 時制 2) 無生物主語 3) 動名詞 前期末試験：1) 分詞構文 2) 関係詞 3) 不定詞 4) 仮定法 後期中間試験：1) 接続詞 2) 代名詞 3) 助動詞 後期末試験：1) 完了 2) イディオム 3) 強調 4) 比較</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績(60%)に課題点(20%)、授業態度点(ノート作成、ペアワークでの取り組み、言語活動ワークシート記述)(20%)を含め、総合評価する。定期試験ごとに提示する到達目標を各々達成することで単位認定の原則とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>教科書名：「トランスファー英語総合問題演習 Course E」 出版社 桐原書店、桐原書店編集部 編</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>参考書名：「英語の構文 150 UPGRADED 99 Lessons」 出版社 美誠社、著者 鷹家秀史(2年次購入済み) 「ワードマイスター英単語・熟語 4500」 出版社 第一学習者(1年次購入済み)</p> <p>補助教材：配布プリント</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>英文読解Ⅱ</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	Introduction	講義の説明, 教材の提示。	
第2週	Unit 1	Reading「謎の車の正体」速読と読解, 語彙の説明	
第3週	Unit 1	Listening exercise, 文法実践問題「時制」	
第4週	Unit 2	Reading「天然塩の重要性」速読と読解, 語彙の説明	
第5週	Unit 2	Listening exercise, 文法実践問題「無生物主語」	
第6週	Unit 3	Reading「地産地消のすすめ」速読と読解, 語彙の説明	
第7週	Unit 3	Listening exercise, 文法実践問題「動名詞」	
第8週	Unit 4	Reading「ハイテクのおばあちゃん」速読と読解, 語彙の説明	
第9週	Unit 4	Listening exercise, 文法実践問題「分詞構文」	
第10週	Unit 5	Reading「世界言語としての英語」速読と読解, 語彙の説明	
第11週	Unit 5	Listening exercise, 文法実践問題「関係詞」	
第12週	Unit 6	Reading「気候変動と文明」速読と読解, 語彙の説明	
第13週	Unit 6	Listening exercise, 文法実践問題「不定詞」	
第14週	Unit 7	Reading「電子通信の産物」速読と読解, 語彙の説明	
第15週	Unit 7	Listening exercise, 文法実践問題「仮定法」	
前期期末試験			
第16週	Unit 8	Reading「微笑みと笑い」速読と読解, 語彙の説明	
第17週	Unit 8	Listening exercise, 文法実践問題「接続詞」	
第18週	Unit 9	Reading「夏季英語講座の案内」速読と読解, 語彙の説明	
第19週	Unit 9	Listening exercise, 文法実践問題「代名詞」	
第20週	Unit 10	Reading「子供の睡眠時間の変化」速読と読解, 語彙の説明	
第21週	Unit 10	Listening exercise, 文法実践問題「助動詞」	
第22週	Unit 11	Reading「英国の女性参政権をめぐる闘争」速読と読解, 語彙の説明	
第23週	Unit 11	Listening exercise, 文法実践問題「完了」	
第24週	Unit 12	Reading「バナナ貿易が環境に与える影響」速読と読解, 語彙の説明	
第25週	Unit 12	Listening exercise, 文法実践問題「イディオム」	
第26週	Unit 13	Reading「触覚と技術進歩」速読と読解, 語彙の説明	
第27週	Unit 13	Listening exercise, 文法実践問題「強調」	
第28週	Unit 14	Reading「森林減少と日本の責任」速読と読解, 語彙の説明	
第29週	Unit 14	Listening exercise, 文法実践問題「比較」	
第30週	Unit 15	Reading「都市のエコ化方法」速読と読解, 語彙の説明	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

英文読解Ⅱ (Intensive English Ⅱ)		3年 ・ 通年 ・ 1単位 ・ 必修 5学科共通 担当 後藤 朗子
〔準学士課程 (本科1ー5年) 学習教育目標 (3)〕	〔システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標〕	〔JABEE 基準〕
〔講義の目標〕 本講義は、英語力の指標として重要視されている TOEIC のスコアアップを目的とし、特にリスニング力向上を目指す。スコア 400 点以上を取るために必要な、リスニング問題における語彙・会話表現・聴解力を高める。		
〔講義の概要〕 TOEIC リスニング問題形式に慣れ、出題傾向を知り、上記の目標を達成するために、リスニング問題をできるだけ数多くこなし、解答のコツを解説する。また、リスニング問題によく使用される、語彙・表現を確認し、音読する。毎回リスニングと書き取りを行なう。		
〔履修上の留意点〕 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回提出課題がある。説明を聴いて理解したことを提出プリントに必ず記入する。 ・ リスニングには、最初は特に集中力が必要となる。リスニング問題に取り組む態勢を整えること。 ・ 授業中以外でも、TOEIC のためのリスニング学習時間を持つことが大事である。 		
〔到達目標〕 TOEIC400 点以上を取ることを目標とする。 前期中間試験： リスニング問題形式に慣れる。英語を聴くことを積み重ね、初歩的な英語を聴き取ることができる。 前期末試験： 写真描写・質疑応答問題の傾向をつかみ、使用される基本的な語彙・表現を聴き取ることができる。 後期中間試験： 短い会話問題の傾向をつかみ、使用される基本的な語彙・表現を聴き取ることができる。 学年末試験： 説明問題の傾向をつかみ、比較的長い文のトピック・内容を聴いて把握できる。		
〔評価方法〕 定期試験 (50%)、毎回の提出課題 (35%)・小テスト(15%)		
〔教科書〕 Practical Situations for the TOEIC Test Listening (成美堂)		
〔補助教材〕		
〔関連科目〕 英語Ⅲ		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第1週	Introduction	ガイダンス	
第2週	Unit 1	Ceremony 挨拶	
第3週	Unit 2	School Life 自己紹介	
第4週	Unit 3	Transportation 交通機関	
第5週	Unit 4	Outdoor Activities 時間	
第6週	Unit 5	Weather 天気	
第7週	Review Test 1	Unit 1-5 の総まとめと確認小テスト	
第8週	Mid-Term Examination of 1st Semester 前期中間試験		
第9週	Unit 6	Holiday Plans 電話の会話	
第10週	Unit 7	Resort Area 依頼	
第11週	Unit 8	Directions 場所案内	
第12週	Unit 9	Job Experience 資格・職業経験	
第13週	Unit 10	Summer Sale 買い物	
第14週	Review Test 2	Unit 6-10 の総まとめと確認小テスト	
第15週	Term Examination of 1st Semester 前期末試験		
第16週	Introduction	ガイダンス	
第17週	Unit 11	Restaurant 注文	
第18週	Unit 12	Arts & Entertainment 感情	
第19週	Unit 13	Sports Events スポーツ	
第20週	Unit 14	Having a Party 感謝の気持ち	
第21週	Unit 15	Health 病気	
第22週	Review Test 3	Unit 11-15 の総まとめと確認小テスト	
第23週	Mid-Term Examination of 2nd Semester 後期中間試験		
第24週	Unit 16	Christmas 提案	
第25週	Unit 17	Cleanup 助けを求める・与える	
第26週	Unit 18	Our Traditions & Customs 人物描写・位置関係の説明	
第27週	Unit 19	Examinations 条件・日程	
第28週	Unit 20	Housing 数字と交渉	
第29週	Review Test 4	Unit 16-20の総まとめと確認小テスト	
第30週	Final Examination 学年末試験		

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

実用英語 I (Practical English I)		3年～5年・通年・1単位・選択 5学科共通・担当 金澤 直志
[準学士課程(本科1 - 5年) 学習教育目標] (3)	[システム創成工学教育プログラム 学習・教育目標]	[JABEE 基準]
[講義の目的] 従来のカリキュラムでは評価していなかった外部の資格試験に対し、学生の資格試験への取り組み及び積極的な受験を促す、あるいは、短期・長期の海外研修、国際交流プログラム等への積極的な参加を促すことで、英語学習への意欲・英語でのコミュニケーションに対する意識を高め、主体的、創造的な学習態度を育成し、学生の優れた英語能力を一層伸ばすことを目的とする。		
[講義の概要] 技能審査の成果の単位認定については、教育課程編成の多様化・弾力化の一つの方策として、平成5年3月の学校教育法施行規則の改正により、制度化された。この制度の円滑な実施を図るために、選択教科・科目の幅を拡大して、多様で弾力的な教育課程を編成している。学校外での学修を 30 単位を超えない範囲で当該高専での授業科目の修得とみなし、単位の修得を認定することが可能となった。そして実用英語技能検定試験（実用英検）などについて、自主的判断に基づき単位が認められることになった。		
[履修上の留意点] 「高等専門学校が単位の修得を認定できる学修を定める件（告示）」でいう、技能審査の認定に関する規則による文部科学大臣の認定を受けていないTOEICについては、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）を示すレポート等の提出をもって、それぞれ、以下のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。 海外研修、国際交流プログラム等への参加については、一定の研修内容及び研修時間等を満たさなければ単位認定の対象とならない場合があるので、事前に確認すること。		
[到達目標] 以下のいずれかを目標とする <ul style="list-style-type: none"> ・ 英語検定試験準2級合格以上 ・ TOEIC スコア 400 点以上 ・ 海外における5日間以上にわたり合計30時間以上の研修を義務付けられたプログラムへの参加 		
[評価方法] 学修の基準となる、上記「到達目標」を到達することにより、単位の認定を行う。ただし、TOEIC については、受講者の取り組み状況（学習内容及び学習時間等）をレポート等の提出をもって、上記のスコアを目安とする学修に対する評価を別途行うことにより、単位認定するものとする。 海外研修、国際交流プログラム等への参加については、研修内容及び研修時間等を示すレポート、証明書等の提出をもって単位認定するものとする。		
[教科書] 特に指定はない。		
[補助教材・参考書] ALC Net Academy 「初中級コース」「Power Words」		
[関連科目] 英語、英文読解、英会話（3年）		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価
第1週			
第2週		単位認定に関して 申請方法 ◎英語検定試験準2級合格以上、または TOEIC スコア 400 点以上 例年1月初旬に申込期間を設定している。 学生には掲示板にて公示されるので、1月に入って掲示板を確認すること。 必ず、成績の証明が必要なので、成績証明のコピーを 申込用紙に添えて学生課教務係に提出すること。 ◎海外における5日間以上にわたり合計30時間以上の研修を義務付けられたプログラムへの参加 プログラム終了後に、主催者が発行する修了証明書等を 学生課教務係に提出すること。	
第3週			
第4週			
第5週			
第6週			
第7週			
第8週			
第9週			
第10週			
第11週			
第12週			
第13週			
第14週			
第15週			
第16週			
第17週			
第18週			
第19週			
第20週			
第21週			
第22週			
第23週			
第24週			
第25週			
第26週			
第27週			
第28週			
第29週			
第30週			
学年末試験			

*4：完全に理解した、3：ほぼ理解した、2：やや理解できた、1：ほとんど理解できなかった、0：全く理解できなかった

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

(達成)

応用物理 I (Advanced Physics I)	3 年・通年・2 単位・必修 M・E・I 担当 新野 康彦	
〔準学士課程(本科 1-5 年)学習教育目標〕 (2)		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>近年急激に進歩した技術は、個人の能力を飛躍的に増大してくれました。最新の技術は我々の生活の隅々に入り込む一方で、あらゆる装置のブラックボックス化を招いています。このような世界では個人の無知やミス、悪意と言ったもので社会に対して重大な悪影響を与える事も可能です。このような時代・世界において、特に技術者が責任ある行動や決断を行うためには、背景にある科学的原理を理解する事によって、自分自身の理解力、洞察力を高める他に方法はありません。</p> <p>3 年次の物理もあらゆる専門科目の基礎であると同時に、科学の基本的方法を学ぶことを目的としています。具体的には</p> <p>(1) 自然現象を数式を使って理解する(数理解)こと、</p> <p>(2) 物理学的理解が自然界のいろいろな現象を統一的に説明できること(普遍性)を理解すること、</p> <p>です。そのためには、科学の理解とは単なる問題の解答を見つける能力とは異なる事を認識し、創発的思考や論理的考察、自ら間違いを訂正する能力を訓練してもらいたいと思います。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>3 年次の物理では、電磁気、量子・原子物理といった、身近な現象から最先端に近い分野までの広範囲な現象を学んだ後、力学の微積分を用いた取り扱いについて振動を中心に学習します。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>応用物理 I は専門科目の基礎に当たるので、「理解する」ということがどういうことかを理解できないと困ります。したがって授業中にこちらから質問を投げかけますので、答えられるように授業の内容を「理解」していくことが重要です。授業中には、学生の発言に関し配点を与える場合もあります。講義時間は限られていますので、演習問題を解くなどの復習を必ずして一週間毎に理解を確認してください。</p> <p>授業内容は予定であり、授業の進捗状況や学生の理解度を考慮して授業で扱わない事もあります。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間：電流、電気と磁気の基本法則を理解し定量的に扱えること。</p> <p>前期期末：前期量子論、物質のエネルギーなど、現代科学の初歩の知識が定着すること。</p> <p>後期中間：微分方程式としての運動方程式を理解し、落体等の初歩的な問題が解けること。</p> <p>学年末：振動に関する運動方程式をたて、その解を求め、物理学意味を理解できるようになること。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>基本的に定期試験(70%)と小テスト、課題レポート(基本的に宿題とします)、授業中の問題解答や質疑応答への積極的参加などの授業中の取り組み(30%)によって総合的に評価します。ただし、本科目への取り組み姿勢に問題がある場合(講義中の授業態度や提出物の提出状況が著しく悪い場合など)は減点する事があります。また、長期欠席による成績不振など、特別の場合は、補講やレポートを考慮する場合があります。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>高専の物理(第 5 版)(森北出版)、高専の物理問題集(第 3 版)(森北出版)、 基礎物理学(第 4 版)(学術図書出版社)</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>フォトサイエンス物理図解(数研出版)、その他配布プリント</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕</p> <p>1, 2 年次の物理分野と数学の最低限の知識は仮定します。しかしながら数学的取扱いに関しては可能な限り復習を含めて授業をすすめる予定です。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	導入, 概観	講義方法, 授業方法, 成績評価補法の説明を行う。	
第2週	静電場	電場, ガウスの法則, 電位について学ぶ。	
第3週	電流と電圧	電流, 電圧, オームの法則, 抵抗について学ぶ。	
第4週	コンデンサー	コンデンサーの原理と計算法について理解する。	
第5週	同上	コンデンサーのエネルギーについて理解する。	
第6週	エネルギーと電力	ジュール熱と電力について学ぶ。	
第7週	磁場	磁石による磁場, 電流の作る磁界について学ぶ。	
第8週	同上	電流が磁場から受ける力, ローレンツ力について学ぶ。	
第9週	電磁誘導	電磁誘導の法則を理解する。	
第10週	同上	電磁誘導の法則の応用を理解する。	
第11週	現代物理	光の粒子性, 物質の波動性を理解する。	
第12週	同上	コンプトン散乱とその意味を理解する。	
第13週	同上	ボーアの原子模型を学ぶ。	
第14週	同上	同上	
第15週	同上	放射線と質量エネルギーを理解する。	
前期期末試験			
第16週	ベクトル(復習)	ベクトルと座標の関係を復習する。	
第17週	微分と積分(復習)	簡単な微分, 積分の計算方法を復習する。	
第18週	運動の法則	ニュートンの三法則の意味を学ぶ。	
第19週	同上	重心の定義を理解する。	
第20週	同上	位置, 速度, 加速度とこれらの関係について理解する。	
第21週	落下運動	落体の運動, 水平投射, 斜方投射の問題を解けるようにする。	
第22週	抵抗力を受ける運動	抵抗のある運動について解析する。	
第23週	導体中の電子の運動	導体中の電子の運動と抵抗運動の対比から電流を理解する。	
第24週	単振動	単振動の方程式と解析のための数学的な準備を行う。	
第25週	同上	単振動の運動方程式を解く。	
第26週	減衰振動	減衰振動の運動方程式をたてる。	
第27週	同上	運動方程式の解と運動の解析を行う。	
第28週	強制振動	強制振動の運動方程式をたて, 解を求める。	
第29週	共振	強制振動の解から共振の条件を理解する。	
第30週	LCR 回路	LCR 回路を振動の運動方程式との対応から理解する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">材料学Ⅱ (Engineering Materials Ⅱ)</p>	<p style="text-align: center;">3年・通年・2単位・必修 機械工学科・担当 谷口 幸典 児玉 謙司</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>本講義の目的は、純鉄の性質と鋼の状態図および熱処理法について学び、①鋼特有の優れた性質がどのように発現するのか、②鉄鋼材料を使用する立場において必須となる基礎知識、③鋼の知識を基礎として非金属材料並びに航空宇宙開発やエレクトロニクス産業などの近年の先端技術を支える新材料、について概観する能力を得ることである。また材料の成り立ちや熱処理の理解、新素材開発等に必要である④結晶構造、⑤拡散現象、⑥平衡状態図について理解することである。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>前期は鋼に焦点を絞り、状態図と組織、熱処理方法と各種合金元素添加による強度特性の変化、様々な鉄鋼材料の特性・用途および JIS 規格による表記について説明する。</p> <p>後期は金属の欠陥、拡散、相変化に関する基礎現象および非鉄金属材料について、特徴と用途、加工性、JIS 規格などを解説するとともに各種新材料に関する基本的事項について概説する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>「材料学Ⅰ」で修得した知識が必須であり、適宜復習すること。本講義にて学習する材料の種類は非常に多い。それらを単に羅列するのでは知識として身に付かない。これまでに学習した知見を活用し、本講義で学ぶ種々の材料がどのような位置付けで成り立っているのかを、自分自身で考察しながら学習する必要がある。組織の種類や熱処理に関する専門用語、JIS 記号など、学習事項が非常に多いが、単に暗記するのではなく、様々な機械材料の性質がどのように決定されるかを常に留意して学ぶことが内容の理解につながる。<u>前期は定期試験と同様の重みをもつ小テストを行う</u>ので注意すること。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間小テスト&試験：1) 鋼の状態図と標準組織、2) 鋼の熱処理、3) 冷却と変態曲線、4) マルテンサイト変態 前期末小テスト&試験：1) 焼入れ性、表面硬化処理、2) 鋼種の分類と JIS 鉄鋼記号、3) 特殊用途鋼、4) Cu, Al 合金など 後期中間試験：1) 結晶構造、2) X 線回折と結晶構造解析、3) 拡散現象 学年末試験：1) 平衡状態、2) 相律、3) 状態図</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>小テストおよび定期試験評点を 80%、課題レポートを 20%とした総合評価とする。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>前期「図解 機械材料」、東京電機大学出版局、打越二彌（「材料学Ⅰ」の教科書を引き続き使用する） 後期「図でよくわかる 機械材料学」、コロナ社、渡辺義見、三浦博己、三浦誠司、渡邊千尋</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>例えば、「大学基礎 機械材料」、実教出版、門間改三 「設計者に必要な材料の基礎知識」、日刊工業新聞社、手塚則雄、米山猛</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>1～3年次の機械工作実習ⅠⅡ、創造設計製作、機械工作法ⅠⅡ、材料学Ⅰ、材料力学Ⅰの他、4年次以降の設計工学Ⅰなど、機械材料を扱う全ての専門科目と関連する。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	鉄鋼材料（総論）	鉄鋼材料について概説する	
第2週	鋼の状態図1	鋼の状態図に関する基本事項（共析変態）を解説する。	
第3週	鋼の状態図2	鋼の状態図の読み方と標準組織を解説する	
第4週	鋼の組織とその性質	共析鋼，亜共析鋼，過共析鋼，組織計算を説明する。 <u>小テストを実施</u> 。	
第5週	鋼の熱処理法	各種熱処理方法について説明する	
第6週	鋼の冷却による種々の変態	冷却と変態，マルテンサイト変態について解説する	
第7週	連続冷却変態曲線	炭素鋼のS曲線，TTT曲線，CCT曲線の読み方を解説する	
第8週	中間試験	中間試験を実施する	
第9週	鋼の焼入性，焼戻し	ジョミニー試験と理想臨界直径，炭素鋼の焼戻し過程を説明する	
第10週	表面硬化処理	浸炭法，窒化法，表面焼入れについて解説する	
第11週	鋼の分類	鋼の種類，対応するJIS鉄鋼記号を解説する。 <u>小テストを実施</u> 。	
第12週	構造用鋼，工具鋼	各種構造用鋼，工具鋼などの種類と用途，熱処理について説明する。	
第13週	特殊用途鋼	調質高張力鋼～ステンレス鋼など各種特殊用途鋼の性質など。	
第14週	CuおよびCu合金	Cuの性質とその合金の特性，規格や用途について説明する。	
第15週	AlおよびAl合金	Alの性質とその合金の特性，規格や用途について説明する。	
前期期末試験			
第16週	結晶構造	結晶構造の分類，ミラー指数，方向，面についての演習	
第17週	X線回折と結晶構造解析1	ブラッグの法則とX線回折について説明する	
第18週	X線回折と結晶構造解析2	ブラッグの法則について演習を行う	
第19週	格子欠陥	空孔，不純物，結晶粒界，表面界面について説明する	
第20週	拡散現象1	拡散の概念について説明する	
第21週	拡散現象2	フィックの第一法則について説明し，演習を行う	
第22週	拡散現象3	フィックの第二法則について説明し，演習を行う	
第23週	系，相，状態変数	状態図理解のための熱力学の基本法則の考え方について説明する。	
第24週	平衡状態・自由エネルギー	平衡状態図と自由エネルギーについて説明する	
第25週	平衡状態図と相律	相律，固溶体の自由エネルギーについて説明する	
第26週	熱力学と相変化	熱力学と相変化に関する演習を行う	
第27週	平衡状態図1	全率固溶型について理解する	
第28週	平衡状態図2	共晶型について理解する	
第29週	平衡状態図3	包晶型について理解する	
第30週	平衡状態図4	平衡状態図に関する演習を行う	
学年末試験			

* 4：完全に理解した， 3：ほぼ理解した， 2：やや理解できた， 1：ほとんど理解できなかった， 0：まったく理解できなかった。
 （達成） （達成） （達成） （達成） （達成）

<p style="text-align: center;">機械工作法Ⅱ (Mechanical Technology II)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 和田 任弘</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 目的は、各種工作法及び工作機械の基礎理論を理解し、工作物に対する最適の合理的工作法の選択能力及び研究能力を習得し、設計のための基礎的知識を養うことにある。</p>		
<p>〔講義の概要〕 切削加工、研削加工、精密加工および特殊加工について講義する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 本日の授業内容を記したプリント (B5 サイズ) を配布するので、ノートにのりづけする事。また、配布する資料 (プリント) も、整理し、ノートにのりづけする事。授業中に理解する努力をし、積極的に質問や発言ができるようにする事。ノートを上手にまとめる事が理解につながる。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：1) 模型設計時の注意事項、2) 金型鋳造法およびその他の鋳造法、3) 切削加工に対する塑性加工の特徴、4) アーク溶接における交流と直流の極性。5) 被覆アーク溶接における溶着状況、6) TIG と MIG 溶接、9) 2 次元切削の状態を作図、各部の名称が説明できること。10) 構成刃先について説明ができること。</p> <p>前期末試験：1) 2 次元切削における切りくずの変形状態、せん断ひずみ、せん断角、切削比、すくい面に直角な力、平行な力、すくい面と切りくずの摩擦係数、摩擦角、せん断面上における垂直力、せん断力、せん断面上における平均垂直応力、平均せん断応力、切削に消費される単位時間当たりの仕事と動力、切削によって発生する熱量を求めることができる。2) 工具材料、3) 切削時間と工具摩耗のグラフの作成、工具寿命時間の判定、V-T 線図の書き方、Taylor の寿命方程式、定数 n、C の求め方が理解できること。</p> <p>後期中間試験：1) 理論仕上げ面粗さを計算、および拡大図によって求めることができる。2) 上向き削りと下向き削りの書き方、3) 上向き削りと下向き削りの特徴、4) 平面研削とフライス削りの相違、5) ドリルの描き方、各部の名称が説明できること。シンニングの効果、ドリルのすくい角と逃げ角、先端角、ねじれ角、バックテーパー、ドリルの材質について説明できること。6) 砥石の 3 要素と 5 因子、7) 自生作用、8) 砥石の研削状態</p> <p>学年末試験：1) 加工エネルギーによる除去加工の分類、2) ホーニング、3) 超仕上げ、4) ラッピング、5) 超音波加工、6) 放電加工、7) 電解研磨、8) 電解加工、9) 電解研削</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験成績 (60%)、レポート点 (10%)、ノート作成 (ノートに解答する演習を含む) 30% の合計 100% で評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「機械系教科書シリーズ 3 機械工作法」、出版社コロナ社、著者平井・和田・塚本共著</p> <p>〔補助教材・参考書〕 「最新 機械製作」、出版社養賢堂、著者械製作法研究会編、「補助教材：配布プリント、ビデオ、サンプルなど」</p>		
<p>〔関連科目〕 第 2 学年 機械工作法Ⅰは勿論のこと、第 1、2 学年 機械工作実習Ⅰ、Ⅱ、第 3 学年 創造設計製作との関連も深く、数学的な取り扱い (三角関数、指数関数) もあるため実際の系を考えながら、勉学してほしい。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第 1 週	鋳造 (p. 3-)	模型設計時の注意事項 (図 2. 2)、金型鋳造法およびその他の鋳造法 (表 2. 6) などについて説明する。	
第 2 週	塑性加工 (p. 23-)	塑性加工と塑性変形 (p. 22)、塑性加工の特徴 (表 3. 1)、ファイバーフロー、再結晶温度、冷間もろさと赤熱もろさなどについて説明する。	
第 3 週	溶接 (p. 51-)	アーク溶接における交流と直流の極性 (図 4. 6)、被覆アーク溶接における溶着状況 (図 4. 7)、TIG と MIG 溶接制などについて説明する。	
第 4 週	切削理論 (p. 73-) (プリント)	複雑な切削機構を理解するために、2 次元切削モデルを製作し、各部の名称を理解するとともに、2 次元切削の状態を作図する。	
第 5 週	切削機構、切りくず、構成刃先 (ビデオ)、	切削機構、連続切りくずと不連続切りくず、構成刃先の消滅方法、功罪について説明する。	
第 6 週	切削抵抗 I (p. 78-) (プリント)	2 次元切削における切りくずの変形状態の説明後、せん断ひずみ、せん断角、切削比を計算する。 <u>(電卓、グラフ用紙持参)</u>	
第 7 週	切削抵抗 II	すくい面に直角な力 N 、平行な力 F 、すくい面と切りくずの摩擦係数 μ (ミュー)、摩擦角 β 、せん断面上における垂直力 F_n 、せん断力 F_s 、せん断面上における平均垂直応力 σ_s 、平均せん断応力 τ_s の計算	
第 8 週	切削抵抗 III (演習 I)	第 6, 7 週で行ってきた授業の演習	
第 9 週	切削抵抗 IV (演習 II)	第 6, 7 週で行ってきた授業の演習	
第 10 週	切削温度 (p. 81-)	仕事と動力、単位、切削に消費される単位時間当たりの仕事と動力、切削によって発生する熱量 Q は、どうなるかを求める。	
第 11 週	工具材料 (p. 82-) (プリント)	炭素工具鋼、高速度鋼、超硬合金、サーメット、セラミックス、立方晶窒化ほう素、ダイヤモンド、コーテッド工具について説明する。	
第 12 週	工具の損傷	すくい面摩耗、逃げ面摩耗、境界摩耗、チッピング、欠損、破損など	
第 13 週	工具寿命 I (p. 85-)	工具の摩耗状態の観察を行い、工具摩耗の形態を説明する。	
第 14 週	工具寿命 II (p. 85-) (プリント)	切削時間と工具摩耗のグラフの作成、工具寿命時間の判定、V-T 線図 (両対数グラフ) の書き方、Taylor の寿命方程式、定数 n 、 C の求め方など。	
第 15 週	工具寿命 III (演習 I)	第 13, 14 週で行ってきた授業の演習	
前期期末試験			
第 16 週	表面粗さ I (p. 87-)	送り方向と切削方向の仕上げ面粗さの違い、理論仕上げ面粗さの求め方について説明する。	
第 17 週	表面粗さ II (作図) (プリント)	作図ならびに理論計算から、最大高さを求める方法について説明する。 <u>(A3 グラフ用紙 2 枚と、製図用具持参)</u>	
第 18 週	表面粗さ III (演習)	第 16, 17 週で行ってきた授業の演習	
第 19 週	フライス盤 I (p. 98-)	フライス削りのモデルについて説明する。上向き削りと下向き削りの書き方 (p. 118 図 6.1(b))、上向き削りと下向き削りの拡大図の書き方について説明する <u>(コンパス持参)</u>	
第 20 週	フライス盤 II	上向き削りと下向き削りの特徴について説明する。切削厚さ (切りくず厚さ) の変化、切削力の方向 (テーブル送りの方向、工作物の取付け方向)、バックラッシュとその除去装置、切りくずのたまる場所など	
第 21 週	ボール盤 I (p. 96-)	ドリルの回覧 (シンニングのあるドリル、シンニングのないドリル)、ドリルの描き方、各部の名称を説明する。	
第 22 週	ボール盤 II およびその他の工作機械	シンニングの効果、ドリルのすくい角と逃げ角、先端角、ねじれ角、バックテーパー、ドリルの材質について説明する。また、平削り盤、形削り盤、ブローチ盤、ホブ盤についても説明する。	
第 23 週	研削加工 (p. 122-)	砥石車について、砥石の 3 要素と 5 因子	
第 24 週	平面研削とフライス削りの相違 (p. 117-)	切削工具では、被削材の硬さの 3 倍以上、切れ刃の丸みのため微小切込みが不可能、工具が摩耗すると工具の再研削が必要 (工具交換が必要) など。	
第 25 週	砥石の研削状態 (p. 125-)	自生作用 (p. 119 図 6.2)、砥石の研削状態 (p. 125~)	
第 26 週	精密加工および特殊加工 I	概要 (p. 140 図 7.1) (1) 除去エネルギーの種類 (2) 加工法の一例	
第 27 週	精密加工および特殊加工 II	ホーニング、超仕上げについて、加工の方法、特徴 (長所、短所)、どのような部品の加工に使用されているかについて説明する。ラッピング	
第 28 週	精密加工および特殊加工 III	超音波加工 (p. 145-)、放電加工 (p. 148-)、電解研磨 (p. 153-)、電解加工 (p. 153-)	
第 29 週	精密加工および特殊加工 IV	電解研削、その他の精密加工および特殊加工	
第 30 週	機械工作法 I および II (演習)	機械工作法 I および II の演習を行うとともに、実際の機械部品を取上げて、第 2 学年および 3 学年で行ってきた各種加工法の内、最適な加工法 (組合わせも可) を選択する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">材料力学 I (Mechanics of Materials I)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 榎 真一</p>	
<p>〔準学士課程（本科 1-5 年） 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 機械や構造物の設計では、様々な材質と形状を持つ部材がどれだけの荷重に安全に耐えられ、どのような変形をするかを知らねばならない。これらの理論的取扱いのための基礎的な知識と能力を将来取り組む機械や構造物の設計のために養うことを本科目の目的とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 機械や構造物が安全に機能を果たすためには、部材が壊れないだけの強度や、部材の荷重による変形が許容範囲内に収まることが求められる。部材に荷重が加わった時、内部に発生する応力とひずみには、ある範囲内で比例関係が成り立つ。3 年次の材料力学では、機械や構造物の基本的要素となる棒や板などの単純な形状の部材を対象に、単純な引張り・圧縮、ねじり、曲げの荷重やモーメントがかかる場合の強度と変形を取扱う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 この科目で習得することは、機械設計にかかわる多くの場面で利用される。また、紙の上だけの理解だけではなく、各種の計算を迅速に行えるようになることが必要となる。そのためには、理論を理解した上で演習問題を自ら手を動かして解く、積極的に取り組む姿勢が望まれる。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期：(1) 外力と内力の違いを理解する (2) 内力と応力との関係を理解する (3) ひずみと変形との関係を理解する (4) 応力とひずみとの関係を理解する (5) 許容応力と安全率を理解する (6) 軸方向荷重問題（静定問題，不静定問題）が解ける (7) 材料の変形（熱ひずみと熱応力，縦ひずみと横ひずみの違い，せん断変形）を理解する 後期：(1) 棒のねじりを理解する (2) 断面二次極モーメントを理解し，求めることができる (3) ねじり問題（静定問題，不静定問題）が解ける (4) はりの曲げを理解する (5) はりのつりあいを理解する (6) はりの曲げ問題（静定問題）が解ける (7) はりの曲げ応力を理解する (8) はりの曲げ応力を求めることができる (9) 断面二次モーメントを理解し，求めることができる</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験（70％），演習（30％）により評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 JSME テキストシリーズ 材料力学，日本機械学会</p> <p>〔補助教材・参考書〕 JSME テキストシリーズ 演習 材料力学，日本機械学会</p>		
<p>〔関連科目〕 機械工学入門，機械設計製図，エネルギー基礎力学，材料学，物理，数学</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	材料力学とは？	機械工学における材料力学の位置づけについて説明する。	
第2週	外力，内力，垂直応力	棒にはたらく外力と内力との違い，内力と垂直応力との関係を説明する。	
第3週	変形と垂直ひずみ	棒の変形（伸び・縮み）と垂直ひずみとの関係を説明する。	
第4週	応力－ひずみ線図	材料試験で得られる応力とひずみとの関係を説明する。	
第5週	許容応力と安全率	材料力学と強度設計との関係について説明する。	
第6週	演習①	第2週～第5週の内容の演習を行う。	
第7週	軸方向荷重問題(1)	棒に重力もしくは遠心力が作用する静定問題を説明する。	
第8週	演習②	第7週の内容の演習を行う。	
第9週	軸方向荷重問題(2)	軸方向荷重が作用する棒の不静定問題を説明する。	
第10週	演習③	第9週の内容の演習を行う。	
第11週	軸方向荷重問題(3)	棒が加熱されたときに生じる熱ひずみと熱応力について説明する。	
第12週	演習④	第11週の内容の演習を行う。	
第13週	材料の変形(1)	材料の変形における縦ひずみと横ひずみとの違いと関係を説明する。	
第14週	演習⑤	第7週～第13週の内容の演習を行う。	
第15週	材料の変形(2)	材料のせん断変形について説明する。	
前期期末試験			
第16週	ねじり問題(1)	円形断面棒をねじったときの変形とせん断応力を説明する。	
第17週	断面二次極モーメント	ねじりに対する棒の断面特性である断面二次極モーメントを説明する。	
第18週	ねじり問題(2)	ねじりモーメントが作用する棒の不静定問題を説明する。	
第19週	ねじり問題(3)	動力を伝える軸に関する変形，せん断応力を説明する。	
第20週	演習⑥	第16週～第19週の内容の演習を行う。	
第21週	はりの曲げ	はりの構造，作用する荷重の種類，支持方法について説明する。	
第22週	はりのつりあい	支持点の反力と反モーメント，はりの内部に生じるせん断力と曲げモーメントについて説明する。	
第23週	演習⑦	第21週，第22週の内容の演習を行う。	
第24週	はりの曲げ問題(1)	集中荷重が作用するはりの静定問題を説明する。	
第25週	はりの曲げ問題(2)	分布荷重が作用するはりの静定問題を説明する。	
第26週	はりの曲げ問題(3)	複数の荷重が加わる場合の重ね合わせの原理について説明する。	
第27週	演習⑧	第24週～第26週の内容の演習を行う。	
第28週	はりの曲げ応力	はりの断面に生じる曲げ応力について理解させる。	
第29週	断面二次モーメント	曲げ応力を求めるために断面二次モーメントを理解させる。	
第30週	演習⑨	第28週，第29週の内容の演習を行う。	
学年末試験			

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">エネルギー基礎力学 (Basic Mechanics)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 福岡 寛</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 エネルギー基礎力学の目的は、機械工学に関連した力学諸問題を解決できる基礎的な能力を養うことにある。</p>		
<p>〔講義の概要〕 既に物理学で学習し、応用物理において平行して学習している力学問題について初歩の微分・積分を駆使し、理解を深めながら、講義を進行する。多くの問題を解くことにより、応用問題への展開、ならびにその本質的な意味の理解力を養うことができるように指導を行う。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 履修にあたっては、数学の微分、積分、ベクトル解析などの基本が身につけていなければ、その理解は困難なものとなる。したがって、授業前の予習、復習は、必ず行うこと。また、復習の成果を確認するため小テストを行う。そのため、授業中は絶えず数式の誘導や演習問題を行うのでノート以外にメモ用紙を準備し、電卓の携行を忘れないようにする。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期中間試験： 1) 力の概念を理解し、その合成および分解ができる、 2) トラス構造体において部材に作用する力を求める、 3) 簡単な物体の重心の求め方を理解する。 前期末試験： 1) 複雑な形状の重心を求める、 2) 質点の運動において速度および加速度の求め方を理解する、 3) 平面運動における質点の挙動を理解する、 後期中間試験： 1) 運動法則を理解する。 2) 剛体の運動方程式の導出、 3) 慣性モーメントの概念を理解する、 4) 簡単な形状に対する慣性モーメントを求める、 学年末試験： 1) 回転体のつりあいについて理解する、 2) 運動量と力積の概念を理解する、 3) 運動量保存則を理解し、物体の衝突において反発係数の概念を理解する、 4) 仕事とエネルギーの概念を理解し、簡単な運動におけるエネルギー保存則を理解し、簡単な機械の運動におけるエネルギー保存則を理解し、計算する。</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験 (70%)、演習課題・小テスト (30%) を総合して評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 「教科書名：工業力学」、出版社：コロナ社、著者：吉村 靖夫・米内山 誠 〔補助教材・参考書〕 「補助教材：配布プリント」 適宜配布</p>		
<p>〔関連科目〕 数学・物理・応用物理・材料力学。問題を解決するためには、実際の現象をイメージしながら、これまで得た知識をフルに活用することが大切である。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	力の合成と分解	力をベクトルとして扱い、その分解と合成を図式で理解する。	
第2週	力のモーメント	力のモーメントと偶力について学習する。	
第3週	力の置き換え	力の置き換えを理解し、着力点の異なる力の合成を行う。	
第4週	力のつりあい	反力の概念と力のつりあいを理解する。	
第5週	トラス 1	トラス構造における各部材に作用する力の求め方を学習する。	
第6週	トラス 2	接点法と切断法を用いてトラス部材に作用する力を求める。	
第7週	総合演習(1)	力のモーメント、つりあい、トラスについて応用問題を解く。	
第8週	重心	重心の概念を理解し、簡単形状の重心を求める。	
第9週	物体の重心 1	回転体の表面積と体積の求め方を学習する。	
第10週	物体の重心 2	物体の重心について応用問題を解く。	
第11週	並進運動 1	速度および加速度の定義とベクトル表記について学習する。	
第12週	並進運動 2	直線運動における位置と速度ならびに加速度を求める。	
第13週	円運動 1	質点の放物線運動と円運動について学習する。	
第14週	円運動 2	質点の平面運動について応用問題を解く。	
第15週	相対運動	絶対運動と相対運動について学習する。	
前期期末試験			
第16週	運動の法則	運動の法則の意味を理解する。	
第17週	慣性力	慣性力、遠心力（向心力）の意味を理解し、応用問題を解く。	
第18週	剛体の動力学	角運動方程式と慣性モーメントの概念を理解する。	
第19週	慣性モーメント 1	慣性モーメントに関する定理を理解する。	
第20週	慣性モーメント 2	簡単な物体の慣性モーメントの求め方を理解する。	
第21週	剛体の平面運動 1	並進と回転運動について学び、瞬間中心の概念を理解する。	
第22週	剛体の平面運動 2	剛体の平面運動に関し、運動方程式を用いて問題を解く。	
第23週	運動量と力積	運動量と力積の定義を学び、力との関係を理解する。	
第24週	運動量保存の法則	運動量保存則の定義とその応用について学習する。	
第25週	角運動量	円運動における角運動量保存則について学習する。	
第26週	衝突 1	向心衝突に関し、運動量保存則を利用して速度の変化を求める。	
第27週	衝突 2	偏心衝突における換算質量の概念について学習する。	
第28週	仕事	仕事の定義を理解し、重力、ばね、トルクのする仕事について学習する。	
第29週	動力とエネルギー	動力、エネルギーの定義を学び、位置、運動、回転エネルギーについて演習問題を解く。	
第30週	エネルギー保存則	エネルギー保存の法則について学習する。	
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">情報処理Ⅱ (Information ProcessingⅡ)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・後期・2 単位・必修 機械工学科・担当 廣 和樹</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 2 年次に学習した C 言語によるプログラミングに基づいた講義・演習によって、さらに理解を深めることを目的とする。プログラミングによって得られるものは、単なる知識ではなく、条件分岐や繰返しといった処理を用いる論理的思考能力である。</p>		
<p>〔講義の概要〕 プログラミングに必要な文法などは講義形式により行うが、効果的な学習のために、実際にコンピュータを使ったプログラミングの演習問題を用意する。また機械工学における問題解決ツールとしての計算方法についても説明する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 プログラミングについては、経験による習得が第一です。つまり、講義だけでなく、演習による試行錯誤の経験を通して、その利用技術を習得するといった要素が大きい。したがって演習に自ら積極的に取り組む姿勢が望まれる。</p>		
<p>〔到達目標〕 中間試験： 文字列、ポインタと関数、ファイル処理 期末試験： 構造体、数値計算の基礎</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験(60%)を基本とし、これにレポート(30%)、取組み(10%)を加え、総合的に評価する。授業中の積極的な質問に対しては、評価にプラスする。</p>		
<p>〔教科書〕 「明解 C 言語 入門編」柴田望洋 ソフトバンクパブリッシング 〔補助教材・参考書〕 配布プリント 「C 言語①及び②」倉 薫著 翔泳社</p>		
<p>〔関連科目〕 講義・演習にあたっては、数学や専門科目の学習と関連づけて進めていくこともある。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己 評価*
第 1 週	概要説明	情報処理Ⅱの概要を説明する。 2 年次で習得した内容について演習を行う。	
第 2 週	文字列の基本	文字列の基本について演習を行う。	
第 3 週	ポインタと関数 1	ポインタについて説明・演習を行う。	
第 4 週	ポインタと関数 2	ポインタについて演習を行う。	
第 5 週	様々なプログラム 1	各種プログラムについて演習を行う。	
第 6 週	様々なプログラム 2	各種プログラムについて演習を行う。	
第 7 週	様々なプログラム 3	各種プログラムについて演習を行う。	
第 8 週	構造体 1	構造体について演習を行う。	
第 9 週	構造体 2	構造体について演習を行う。	
第 10 週	数値計算の基礎 1	数値計算の基礎について演習を行う。	
第 11 週	数値計算の基礎 2	数値計算の基礎について演習を行う。	
第 12 週	様々なプログラム 4	各種プログラムについて演習を行う。	
第 13 週	数値計算の基礎 3	数値計算の基礎について演習を行う。	
第 14 週	数値計算の基礎 4	数値計算の基礎について演習を行う。	
第 15 週	総合演習	総合演習を行う。	
期末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
(達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">電気工学 (Electric Engineering)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 酒井 史敏</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕</p> <p>電気は、身近な電化製品から工業機器にいたるまで、さまざまな分野で利用され、現代社会においてなくてはならないものであり、さまざまな工学技術を学ぶ上で、電気工学の基礎は理解しておく必要がある。電気工学の基礎となる直流回路、電流と磁気、静電気、交流回路について基本的な知識や計算力が十分得られるようにする。</p>		
<p>〔講義の概要〕</p> <p>電気工学は、電磁気学と交流理論がその中心であり、理論的に構築された難しい分野であるが、そのすべてを理解しなければならないということではない。機械工学科として最低限理解しておく必要のある事項を中心に解説する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕</p> <p>原則毎時間演習問題を実施する。授業中は積極的に質問や発言ができるように準備しておくこと。ノートをきちんととり、配布プリントを整理しておくこと。</p>		
<p>〔到達目標〕</p> <p>前期中間試験：</p> <p>1) オームの法則の意味を理解する。2) 電気抵抗の意味を理解する。3) 抵抗の直列接続，並列接続について理解し，合成抵抗を求めることができる。4) 直流回路の計算ができる。5) キルヒホッフの法則により回路網の計算ができる。6) 電気によって発生する熱量を求めることができる。7) 電力と電力量を求めることができる。</p> <p>前期末試験：</p> <p>1) 磁界の大きさ，磁束，磁束密度などの意味を理解する。2) 磁界中の電流に働く力を求めることができる。3) 磁気回路の計算をすることができる。4) 電磁誘導について理解し，誘導起電力を求めることができる。</p> <p>後期中間試験：</p> <p>1) 静電気，静電力について理解する。2) 静電誘導について理解する。3) 電界，電位，電束密度などの意味を理解する。4) コンデンサの構造について理解する。5) コンデンサの接続について理解し，合成容量を求めることができる。6) コンデンサに蓄えられるエネルギーを求めることができる。</p> <p>学年末試験：</p> <p>1) 交流の基礎について理解する。2) 交流波のベクトル表示について理解する。3) 交流の基本回路の計算をすることができる。4) 共振回路を理解し，共振周波数を求めることができる。5) 交流の電力を求めることができる。6) 過渡現象について理解し，電圧や電流の波形を計算することができる。</p>		
<p>〔評価方法〕</p> <p>定期試験成績（80％）に演習問題（20％）を含めて総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕</p> <p>「機械系の電気工学」・コロナ社・深野あづさ 著</p> <p>〔補助教材・参考書〕</p> <p>プリント資料</p>		
<p>〔関連科目〕</p> <p>応用物理，電子工学など。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	電子と電流, 電圧と起電力	電子と電流の関係, 電流, 電圧の性質について説明する.	
第2週	オームの法則, 抵抗の接続	オームの法則, 抵抗の直列接続・並列接続について説明する.	
第3週	直流回路の基本	合成抵抗の求め方, 直流回路における電圧降下などについて説明する.	
第4週	キルヒホッフの法則	キルヒホッフの法則を用いた回路網の計算について説明する.	
第5週	ジュールの法則	電気によって発生する熱量について説明する.	
第6週	電力と電力量	直流回路の電力, 電力量の計算について説明する.	
第7週	熱電現象, 電気抵抗	ゼーベック効果, ペルチェ効果について説明し, 応用例を示す. また, 電気抵抗の求め方について説明する.	
第8週	磁界と磁界の大きさ	磁界の意味, 磁界の大きさの求め方について説明する.	
第9週	磁束と磁束密度	磁束, 磁束密度の意味について説明する.	
第10週	電流が作る磁界	電流のまわりに生じる磁界について説明する.	
第11週	磁界中の電流に働く力	磁界中に流れる電流によって生じる力の求め方について説明する.	
第12週	電流相互間に働く力	電流と電流の間に生じる力の向き, 大きさの求め方について説明する.	
第13週	磁気回路, 磁化曲線, 磁気ヒステリシス	磁気回路の計算方法, 磁気回路と電気回路との対応, ヒステリシス現象などについて説明する.	
第14週	電磁誘導現象	電磁誘導現象について説明する.	
第15週	誘導起電力の大きさと方向, インダクタンス	電磁誘導現象によって生じる誘導起電力の大きさ・方向の求め方, 自己インダクタンス, 相互インダクタンスについて説明する.	
前期期末試験			
第16週	静電気, 静電力	静電気の性質, 電荷間に生じる力などについて説明する.	
第17週	静電誘導	静電誘導について説明する.	
第18週	電界と電位	電界の意味, 電界の大きさ, 電気力線などについて説明する.	
第19週	電束と電束密度	電束, 電束密度の意味について説明する.	
第20週	コンデンサと静電容量	コンデンサの構造, 静電容量について説明する.	
第21週	コンデンサの接続	コンデンサを直列・並列に接続したときの合成容量の求め方について説明する.	
第22週	コンデンサに蓄えられるエネルギー	コンデンサが蓄えることができる電気エネルギーの求め方について説明する.	
第23週	交流の基礎	交流の波形, 平均値, 実効値の求め方について説明する.	
第24週	交流波のベクトル表示	交流波をベクトルとして表示する方法について説明する.	
第25週	交流の基本回路	抵抗のみ, インダクタンスのみ, 静電容量のみの交流回路の計算方法について説明する.	
第26週	いろいろな交流回路	抵抗, インダクタンス, 静電容量を組み合わせた交流回路の計算方法について説明する.	
第27週	共振回路	直列共振回路, 並列共振回路について説明する.	
第28週	交流の電力, 電力量	交流回路の電力 (有効電力, 無効電力, 皮相電力) について説明する.	
第29週	過渡現象	過渡現象の意味, 電圧や電流の波形の計算方法について説明する.	
第30週	まとめ		
学年末試験			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">機械設計製図Ⅲ (Machine Design and Drawing Ⅲ)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・2 単位・必修 機械工学科・担当 小柴 孝</p>	
<p>〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (2)</p>		
<p>〔講義の目的〕 第 1、2 学年において修得した製図技法に加え、第 3 学年では、機械設計製図の演習を通して、機能設計、強度設計の基本と金属材料の加工、はめあい、幾何公差を考慮した設計製図の基本を修得することを目的とする。油圧シリンダーを設計課題とする。</p>		
<p>〔講義の概要〕 油圧シリンダーを設計課題として取り上げ、各自与えられた仕様を満足させるよう設計し、設計書として纏め上げる。更に機械製図の基礎に基づき油圧シリンダーの製作図面(部品図、組立図)を完成させる。その後、実際の油圧シリンダー(仕様不明)をサンプルとし、仕様の詳細を調査し、個々の設計と比較し、修正を加え、最終的な設計仕様書を確定する。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 設計書、図面一式を作成することにより、設計書の書き方から図面の纏め方までを修得することを目標とする。また、提出期限を厳守することによって、エンジニアとして最も重要である納期を厳守する習慣を身につける。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期末試験： 1) はめあい、表面性状、幾何公差 2) 機械要素の強度 3) 油圧シリンダーの構造 学年末課題： 1) 設計書、図面のまとめかたの理解、2) 表面性状、はめあい、寸法公差などの精度指示</p>		
<p>〔評価方法〕 定期試験(40%)、設計書提出(10%)および図面(50%)を総合して評価する。計算書提出で理論と計算の理解度を確認して、定期試験でさらに応用問題で確認する。それらの理論と計算の成果を学年末の図面提出で総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕「機械製図」 林 洋次監修 実教出版 および配布プリント 〔補助教材・参考書〕 「JIS にもとづく機械設計製図便覧 津村利光関序 大西清 著 理工学社 「新編 JIS 機械製図」 森北出版</p>		
<p>〔関連科目・学習指針〕 基礎数学、材料力学、材料工学、機構法、機械工作法 他</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	設計の意義、プロセス	設計の定義、プロセス、設計業務範囲他について解説する。	
第2週	設計に必要な知識、標準	設計の各工程で決める事項および標準について解説する。	
第3週	機械強度設計の基礎	機械設計の基礎となる事項について解説する。	
第4週	機械強度設計の基礎	応力、ひずみ、変形、許容応力、安全率等を説明する。	
第5週	機械強度設計の基礎	機械要素の強度について解説する。	
第6週	機械強度設計の基礎	薄肉円筒、ボルト、軸他の強度について問題を解き理解を深める。	
第7週	機械強度設計の基礎	薄肉円筒、ボルト、軸他の強度について問題を解き理解を深める。	
第8週	油圧機器の概要	油圧機器、油（流体）の性質、油圧制御について解説する。	
第9週	油圧シリンダーの概要	油圧シリンダーの構造、シール部品について解説する。	
第10週	シリンダーの設計法	油圧シリンダーの設計法、プロセスについて解説する。	
第11週	シリンダーの設計法	油圧シリンダーの設計法、プロセスについて解説する。	
第12週	油圧シリンダーの設計	設計プロセスに従い油圧シリンダーを設計する。	
第13週	油圧シリンダーの設計	設計プロセスに従い油圧シリンダーを設計する。	
第14週	油圧シリンダーの設計	設計プロセスに従い油圧シリンダーを設計する。	
第15週	油圧シリンダーの設計	設計書を完成させ提出する。	
前期期末試験			
第16週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第17週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第18週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第19週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第20週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第21週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第22週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第23週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第24週	油圧シリンダーの製図	油圧シリンダーの製作図を作成する。	
第25週	油圧シリンダーの調査	仕様が不明な油圧シリンダーについて、その詳細を調査する。	
第26週	油圧シリンダーの調査	仕様が不明な油圧シリンダーについて、その詳細を調査する。	
第27週	油圧シリンダーの調査	仕様が不明な油圧シリンダーについて、その詳細を調査する。	
第28週	油圧シリンダーの検証	設計した油圧シリンダーについてその仕様を再検討する。	
第29週	油圧シリンダーの検証	設計した油圧シリンダーについてその仕様を再検討する。	
第30週	まとめ	設計書、図面(部品図,組立図)の相互比較。	
学年末 課題図面提出			

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった.
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)

<p style="text-align: center;">創造設計製作 (Mechanical Design and Production)</p>	<p style="text-align: center;">3 年・通年・3 単位・必修 機械工学科・担当 平 俊男</p>	
<p style="text-align: center;">〔準学士課程(本科 1-5 年) 学習教育目標〕 (4)</p>		
<p>〔講義の目的〕 「創造設計製作」は、1, 2 年で学習してきた科目・実習および3年で並行して学習する科目全てを総合し、グループ単位で自ら設計・製図した装置を自ら製作する科目である。本科目の目的は、(1)物作りのプロセスの体験、(2)基礎的な専門知識の活用と調査活動、(3)創造能力の開発と設計センスの育成、(4)1つの目的に向けたグループ活動の体験、であり、個々の学生の自主性、協調性を高めつつ、創造性を養うことにある。加えて、社会人としての責任感と社会性を認識させる。</p>		
<p>〔講義の概要〕 本科目のために班に分かれてグループで作業を行う。前期は、主に設計のための予備知識を身につけるための講義、課題の設計と製図、および、より実際の加工のための基礎実習(機械工場)を行う。後期は、機械工場での製作活動にあてる。指導方針としては、講義は課題に関する説明や資料による装置の作動原理にとどめ、創意工夫の余地を多く残し、グループで考えることに重点を置く。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 製品の発案から完成までのプロセスは1人では達成不可能である。設計・製図作業においては、各自が積極的に発案・作業することはもちろん、役割分担等をしっかりと定めてグループ内でまとまって効率的に作業を行うこと。作業が遅れているグループが1つでもあると本科目の作業日程に影響が出るので、<u>図面等の資料の提出期限の遅延は絶対に認められない</u>。この点で、授業とはいえ、グループ単位の生産活動を体験することは、個人が責任を認識してそれを全うすることが大前提にあることを認識して望むこと。特に夏季休業中など、講義時間外にも図面作成を行うことが求められるので、グループ単位で綿密な作業の段取りを行う必要がある。なお、個々のグループが効率的に作業を行っていることの証明として、各種提出資料(図面や加工工程表)ごとに製作代表者を定めること。例えば後期の製作において、各部品の製作代表者は各週の作業終了後にその日の作業内容を「加工工程表・作業報告書」として提出・報告し、確認を受けなければならない。この作業は加工可能な工程を認識するために必須であり、これを怠ると、設計した部品の加工ができなかったり、作業終盤にて不備が判明し、製品完成に至らない事態となる。機械工場における前期の基礎実習ならびに後期の製作活動では、思わぬ事故を未然に防ぐため指導担当者の指示に従うことはもちろん、各自が<u>安全に十分留意すること</u>。また、グループ活動であることから、体調不良などの特別な事情・理由のない遅刻・欠席は責任感および社会性の欠如とみなし、評価の対象となる。</p>		
<p>〔到達目標〕 前期：創意工夫のある製品設計図の完成、および、各基礎実習の理解。 後期：所定の機能を備えた装置の製作活動における自主性・協調性の発揮と個人の責任の認識 なお、いずれの作業も、適切な手法によって行えること。</p>		
<p>〔評価方法〕 提出資料(50%)、設計・製作活動への取り組み(40%)、作品の評価(10%)の総合評価する。</p>		
<p>〔教科書〕 関連科目で購入済みの下記の参考書を活用すること。 〔補助教材・参考書〕 「機械製図」、実教出版、林洋次、「新編 J I S 機械製図」、森北出版、吉沢武男、「最新機械製作」、養賢堂、機械製作法研究会</p>		
<p>〔関連科目〕 機械工作実習、機械設計製図、機械工作法、エネルギー基礎力学、材料力学、材料強度学</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	ガイダンスおよび課題説明	ガイダンスを行い、課題の説明を行う。以下、各項目について指導教員の資料提供とアドバイスの下で作業を進めていく。	
第2週	構想図の作成 1	各グループで、与えられた課題を達成する独自のアイデアに基づいた製品構想図を作成して提出する	
第3週	構想図の作成 2 (提出)		
第4週	基本設計 1	構想図に基づいて、製品組立図の大まかな作成を行う。そのために、素材となる鋼材等の調査を行い、具体的な構造・寸法について決定する。	
第5週	基本設計 2		
第6週	部品設計と安全指導	適宜、部品図の作成に取り掛かる。 なお、次週より始める基礎実習のための安全指導を行う。	
第7週	基礎実習 1	実際の加工に備えて、機械工場などにて基礎実習を行う。 1. 旋盤 (笹山・福田) 2. ボール盤・手仕上げ (池内) 3. ワイヤークット (島田) 4. フライス盤 (尾崎・井上) 5. 図面作成 (平)	
第8週	基礎実習 2		
第9週	基礎実習 3		
第10週	基礎実習 4		
第11週	基礎実習 5		
第12週	図面作成 1	必要となる素材の調査や加工工程の十分な検討を行い、組立図・部品図を完成させる。	
第13週	図面作成 2		
第14週	図面作成 3		
第15週	図面作成 4 (提出)	組立図・部品図を提出し、加工工程表を作成・提出する。	
第16週	製作開始ガイダンス	実習工場にて工作機械の割当てや作業の進め方と作業ルールを説明し、製作を開始する。	
第17週	製作 1	毎回、事前に提出された加工工程表に基づいて、部品の製作を行っていく。 作業時間終了時、その日の作業報告書として、各部品の加工進捗状況を提出・確認を受けるとともに、次回取り組む部品の加工工程表を作成し、提出する。 設計変更が余儀なくされた場合は、その都度図面を修正・提出する。	
第18週	製作 2		
第19週	製作 3		
第20週	製作 4		
第21週	製作 5		
第22週	製作 6		
第23週	製作 7		
第24週	製作 8		
第25週	製作 9		
第26週	製作 10		
第27週	製作 11		
第28週	製作 12		
第29週	性能試験 (製品提出)	完成した装置の性能試験を実施する。	
第30週	報告会 (資料提出)	報告会を行うとともに、全資料を提出する。	

* 4 : 完全に理解した, 3 : ほぼ理解した, 2 : やや理解できた, 1 : ほとんど理解できなかった, 0 : まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)